

歴史の道をゆく the history of road Act.1

大間越街道(1)

金光寺からの「能代道」

大間越街道は、藩政初期に羽州街道とともに整備された「能代道」と「八森海道」をつないだ、津軽藩弘前城下につづく街道である。

この街道は、明治十二年(一八七九)に道路の修繕規則が定められ、山本郡豊岡金田村(現山本町)より能代港を経て青森県境の大間越に至るまでが、明治十六年(一八三三)になつて初めて「大間越街道」の名称がつけられた。山本町金光寺で羽州街道から分岐する能代までの、いわゆる「能代道」は、外岡逆川(山本町)を通り、長崎から能代市に入る現在の県道金光寺能代線とほぼ重なる。

羽州街道と分かれる金光寺の三叉路に、街道の名残とされる老松が一本ある。そこから街道を二〇メートルほど進んだところに、金光寺二里塚跡があり、実質的にはそこが大間越街道の起点であったようだ。少し先の根岸入口は、羽立から鶴川(八童町)に通じる道と、志戸橋、松山に向かう道が左右に分かれ、庚申塔や相染塚(馬頭観音)がいくつか見られる。

相染からJR奥羽本線を越えて外岡に入る。街道からの入口に、「右の□□(のしろ)」「久□□(久保田)」と読めそうな庚申塔がある。「のしろ」「久保田」と刻まれた庚申塔が羽



①

州街道の鶴形の村外れにあった例を見ても、そのように彫られているのは、ほぼ間違いのないものと思われる。鶴形のそれは、現在、移動されて金比羅神社の境内に残っている。

段丘地帯にある外岡は、街道から西に少し外れるが、藩政初期、能代道の整備により、志戸橋村の一部を割ってできた村と推定され、



②

街道の左右に田畑が広がっている。かつてこの鶴川の右流台地はほとんど無人の原野で、中世期は湊安東氏の松山城攻めに、また藩政期には外岡村や志戸橋村など周辺の草刈場入会の紛争が絶えなかったところである。黒瀬の村を過ぎると五本松の木立が右手前方に見え、その中に基の相染様の祠がある。逆川から相染森(能代市)にかけては段丘舌端部となり、ここから先は米代川畔の平野部となる。相染森には相染神社と、旧街道の二部が往時の面影をとどめて残されている。



③

米代川左岸の沖積地や砂丘に作られた能代町に入ると、出戸から中和町を通じて畠町に至る街道の西側砂丘には砂防林が広がっている。大正時代に能代高等女学校(現能代北高)が出来た樽子山付近が能代町の南限とされ、現在のJR五能線能代駅付近から松山道が分かれていた。藩政期の街道の呼び方は、目的地を差すのが一般的で、「能代道」は逆に「久保田道」となった。

大間越街道が通る畠町は寛文八年(一六六八)に成立した町で、久保田通りや男鹿街道から能代に入った藩役人などが畠町の辨形の外で出迎えられた。

柳町角から二五〇メートルほど行って長根通りと交差し、長根通りの西端に能代奉行所や米蔵があり、願勝寺の西北、畠町に面した角に、能代から男鹿に向かう海岸沿いの男



④

鹿街道が大間越街道と接する札所があった。近くには、御伝馬役所もあつて交通の要衝になった。

万町(昔のあらまち)から幸町で米代川の渡船場に達する。舟着場の界限は旅籠が立ち並び、上川反町には、かの菅江真澄の常宿となつた尾張屋八兵衛の間屋もあった。



⑤



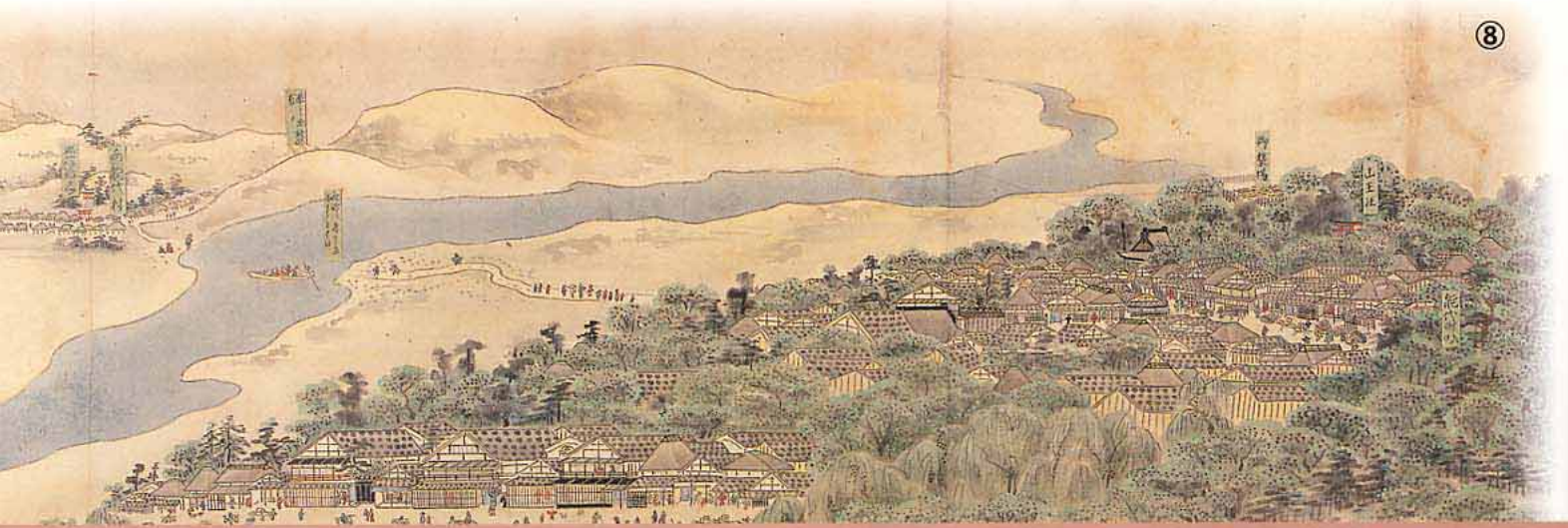
④

また相染森の東、台地の下には縄文晩期遺跡の柏子所貝塚(県指定史跡)がある。海水産、淡水産合わせた貝類がたくさん出土し、また埋葬人骨八体が発見されたことでも知られている。

街道は、ほぼ現在の県道金光寺能代線となぞるように大内田から長崎へ北進する。大内田本郷は長崎や塩干田、出戸、柏子所などの支郷をもつ。長崎と出戸の西側は二帯に砂丘地が広がり、寛政年間(一七八九)一八〇二に、久保田藩の砂留普請役人を務め、秋田県内の海岸砂防林を完成させた栗田定之丞が、周辺の村に指導し植林させた砂防林が残る。長崎と河戸川村の袴田家はそれぞれ肝煎として代々、砂留普請に尽力した。現在、大間越街道が国道7号と交差する出戸付近に栗田定之丞を祀った栗田神社がある。



⑤



⑧



- ①追分の一本松(山本町豊岡金光寺)
羽州街道との分岐点にあたる金光寺の追分。左が大間越街道で右が羽州街道。追分の松は推定樹齡が160年ほど。馬と平山三吉大神の祠がある
- ②金光寺の一里塚(山本町豊岡金光寺)
羽州街道との追分から200メートルほど能代寄りに標石が建っていて、大間越街道としてはここが最初の一里塚となっていた
- ③五輪の塔(山本町外岡)
街道から1キロメートルほど八童町鶴川方向へはずれた所に残る。文化10年(1812)の塔で、7人の女性が施主となつての建立は珍しい
- ④黒瀬の一里塚(山本町外岡黒瀬)
大間越街道2番目の一里塚。道路の東側に高さ約1.6メートルの塚が残されている。道路の西側は羽立集落へ向かう脇道との追分となっている

- ⑤相染様の祠(山本町外岡五本松)
相染様は主に東日本に分布する馬の守護神で、この街道沿いには多く見られる。地域の人々の生活のなかに、馬との関わりが深さがしのばれる
- ⑥相染神社(能代市江戸川相染森)
小高い丘の上に建つ神社で、鎮守の森に囲まれて静かな気配が漂う。神社の周囲に忘れ去られたような旧道が、200メートルほど残されている
- ⑦風の松原(能代市)
300年ほど前から、長尾祐達や船問屋の渡辺家、庄屋の村井家、栗田定之丞、加藤景林などにより長年に渡り植林され続けた砂防林。現在は700万本にも達して能代市民の憩いの場となっている
- ⑧「秋田街道絵巻」より能代の図
荻津勝孝・画と伝えられる三巻からなる絵巻。文化期(1804~1818)ごろの作と思われるもので、米代川の舟渡しが見える(秋田市立千秋美術館蔵)